

弘大COIネクスト

中間評価で最高「S」

JST 地域共創、共創分野で唯一

国の採択を受けて健康を基軸に、ウェルビーイング（心身と社会的に健やかで幸せな状態）な地域社会モデルの実現に向けたプロジェクトに取り組む弘前大学COI-NEXT（以下COIネクスト）が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の1回目の中間評価で最高ラ

ンの「S」を獲得した。地域共創、共創の両分野で唯一、かつ前身の「革新的イノベーション創出プログラム（COI）」から最高評価を取り続けているのは同大のみ。関係者らは喜びに沸き、さらなる地域振興や連携拠点としての役割強化を誓う。
（稲葉智絵）

研究成果を広く還元

さらなる「地域の協力に感謝」 振興へ意欲



弘前大COI-NEXTの基盤となる取り組み「岩木健康増進プロジェクト」の健診（写真は資生堂ブース）=2025年5月

COIの後継として創設された「共創の場形成支援プログラム（COIネクスト）」は、文部科学省の研究開発支援事業としてJSTが実施、大学などが中心となって未来のあるべき社会像を策定し、その実現に向けた研究開発を推進する拠点として採択された。了後も持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す。弘前大は2022年、本県の重要課題の一つ「短命県返上」を視野に、地域経済発展と健康寿命延伸の両立によりウェルビーイングな地域モデルの実現を目指す拠点として採択された。



最高評価獲得を喜び、さらなる地域振興を誓う

な長副学長村下公一、同大COI-NEXT拠点長の村下公一副学長は「地域の皆さんの理解と協力のたまものであり、COIの基盤があったからこそ、このような評価を受けることができた」と深く感謝。今後の展開について「世

大規模住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」（以下岩木健診）で蓄積した約3000項目にわたる健康ビッグデータを活用した研究をはじめ、岩木健診のノウハウや知見を凝縮して開発した新行動変容プログラム「QOL健診」の拡大、ヘルスケアデータ利活用基盤構築といった取り組みを大きく進展。さらに、全国屈指の研究グループとの強固な連携、大手企業などが参画する共同研究講座の設置、社会実装促進

など、持続可能な共創システムの構築、強化してきた。評価は最高位の「S」から「D」までの5段階で、1回目の中間はプロジェクト開始後3年間の研究活動が対象。JSTが4月に公表の報告書によると、同大は多岐にわたる分野の成果を地域をはじめ全国に広く還元していることに加え、優れた進展が期待できるとして最高評価を受けた。

「将来の健康リスクを予測し、その人に合った改善行動を提示する未来を築き、地域のウェルビーイングを高めていきたい」と力を込めた。

界が注目するウェルビーイングの先進的な研究に「将来の健康リスクを予測し、その人に合った改善行動を提示する未来を築き、地域のウェルビーイングを高めていきたい」と力を込めた。